

H20 年金数理人会試験解答

pseudomathematician

平成 29 年 2 月 18 日

問題 1.(C)

$\int_0^{10} (10k + tk)e^{-\int_0^t \frac{1}{10+u} du} dt = 200$ を解けばよい.

問題 2.(E)

$$q_{x-1} = \int_0^1 {}_t p_{x-1} \mu_{x-1+t} dt \leq \int_0^1 \mu_x dt = \mu_x,$$

$$\mu_x \ddot{e}_x = \mu_x \int_0^{\omega-x} {}_t p_x dt \leq \int_0^{\omega-x} {}_t p_x \mu_{x+t} dt = 1$$

より.

問題 3.(A)

$$i = \left(\frac{(1-p_x)D_x}{C_x} \right)^2 - 1 \text{ より.}$$

問題 4.(D)

$n = 1, 2$ で確かめればすぐわかる.

問題 5.(C)

退職金を F とする. 現行制度の年金現価は $\frac{\alpha F}{\ddot{a}_{\overline{10}|}^{(2.5)}} \left(\ddot{a}_{\overline{10}|}^{(2.5)} + {}_{10|}\ddot{a}_{60}^{(2.5)} \right)$ と書け, 変更案の年金現価は βF と書ける. 両者が等しいということから, β/α が求まる.

問題 6.(E)

A, B の年齢をそれぞれ x, y とし, t 年の生存確率をそれぞれ ${}_t p_x^A, {}_t p_y^B$ とおく. また死力をそれぞれ μ_A, μ_B とおく. A の年金現価は $\bar{a}_x = \int_0^\infty v^t {}_t p_x^A dt$, B の年金現価は $\bar{a}_{x|y} = \int_0^\infty v^t {}_t p_x^A \mu_A \times {}_t p_y^B \bar{a}_{y+t} dt$ から. なお, $v^t = e^{-\delta t}$, ${}_t p_x^A = e^{-\mu_A t}$, ${}_t p_x^B = e^{-\mu_B t}$ を利用して計算すればよい.

問題 7.(E)

例題が H14. 問題 8 にある. x 歳時点の年金現価率は, 死亡給付部分を α とおけば,

$$a_x^{(m)} + \alpha = \frac{N_x}{D_x} - \frac{m+1}{2m} + \alpha$$

と書ける. α は以下の通り:

$[0/mn, 1/mn]$ の死亡における給付: $1/mn$

$[1/mn, 2/mn]$ の死亡における給付: $2/mn$

...

$[(n-1)/mn, n/mn]$ の死亡における給付: n/mn .

以降, 給付はこの繰り返しで, 平均 $(n+1)/2mn$. すなわち,

$$\alpha = \frac{n+1}{2mn} \bar{A}_x = \frac{n+1}{2mn} \frac{\bar{M}_x}{D_x}$$

を得る.

問題 8.(A)

x 歳の S_{PS}^a が求めるもの. これは $\frac{35}{40} \cdot \frac{D_{60}^{(T)}}{D_{55}^{(T)}} \cdot \frac{N_{60}}{D_{60}}$ となる. 支出現価, 収入現価で表すならば, $\frac{D_{60}^{(T)}}{D_{55}^{(T)}} \ddot{a}_{60} -$

$$\sum_{k=0}^4 \frac{D_{55+k}^{(T)}}{D_{55}^{(T)}} \left(\frac{1}{40} \cdot \frac{D_{60}^{(T)}}{D_{55+k}^{(T)}} \ddot{a}_{60} \right) \text{ となる.}$$

問題 9.(B)

真面目に考える必要はない. 就業期間を 2 年, すなわち $x_r = x_e + 2$ とし, 年金受給期間を 2 年, 就業中の脱退はなし, という極端な例で確認しさえすればよい. ただし, 予定利率は, 就業期間中も年金受給期間中も同率一定としてしまう. このとき, 退職時: $1+v$, 賦課: 2 , 加入時: $v^2(1+v)$, 平準: $2v^2$, 単位: $\frac{v(1+v^2)}{2}$ より.

(注) この例からもわかるとおり, $i = 0$ とすると, 等号成立してしまうものがあるため, 問題に不備があることになる.

問題 10.(E)

明らか.

問題 11.(E)

簡単のため, $h = 0.05, B = 450,000, b = 0.03$ とおく. このとき, 求める現価は

$$\frac{D_{60}^{(T)}}{D_{40}^{(T)}} \left\{ \frac{1}{2} \frac{(1+b)B_{40} \times 40}{7.952} \ddot{a}_{\overline{10}|} + \frac{1}{2} (1+b)B_{40} \times 40 \right\}$$

を計算すればよい. ただし, $D_x^{(T)} = v^x l_{20}^{(T)} (1-h)^{x-20}$.

問題 12.(C)

利差損以外の損益は発生していない, すなわち給付は予定通りであるため, 給付改善前の $n+1$ 年度末責任準備金は $(1,500 + 50 - 80) \times 1.02 = 499.4$, $n+1$ 年度末積立金は $(1,000 + 50 + 100 - 80) \times 1.035 = 1,107.45$ となる. 給付改

善後の $n+1$ 年度末責任準備金は $1.10 \times 499.4 = 1,649.34$,
未積立債務は $1,649.34 - 1,107.45 = 541.89$.

問題 13.(E)

(細かい記号の使い方は判別可能かと思うので、いちいち断らない。) 積立金, 特別保険料の収束値をそれぞれ $\bar{F}, \Delta\bar{C}$ とおく. このとき,

$$\begin{aligned} \bar{F} &= (\bar{F} + C + \Delta\bar{C} - B)(1 + j) \\ \iff \frac{C + \Delta\bar{C}}{L} &= \frac{B}{L} - \bar{F} \frac{*d}{L} = \frac{B}{L} - \frac{\bar{F}}{*G}, \\ \Delta\bar{C} &= \frac{F - \bar{F}}{G^a} \times L \\ \iff \bar{F} &= (S - S^f - \frac{C}{L}G^a) - \frac{\Delta\bar{C}}{L}G^a \\ \iff \bar{F} &= (S - S^f) - \frac{C + \Delta\bar{C}}{L}G^a \end{aligned}$$

これらより,

$$\begin{aligned} \frac{C + \Delta\bar{C}}{L} &= \frac{B}{L} - \frac{S - S^f}{*G} + \frac{C + \Delta\bar{C}}{L} \times \frac{G^a}{*G} \\ \iff \frac{C + \Delta\bar{C}}{L} &= \frac{\frac{B}{L} - \frac{S - S^f}{*G}}{1 - \frac{G^a}{*G}} \\ \iff \frac{C + \Delta\bar{C}}{L} &= \frac{\frac{B}{L} \times *G - (S - S^f)}{*G - G^a} \\ &= \frac{*S^f + (*S^p + *S^a) - (S^p + S^a)}{*G^f + (*G^a - G^a)}. \end{aligned}$$

ただし, 最後は $\frac{B}{L} = \frac{S}{G} = \frac{*S}{*G}$ を利用した.

問題 14.(C)

$$\frac{\sum x l_x}{\sum l_x} = 40, \frac{\sum B_x l_x}{\sum l_x} = 30,$$

$$\frac{\sum (x - 20) d_x}{\sum d_x} = \frac{x_r l_{x_r} + L}{l_{20}} - 40 = 30, \frac{\sum B_x d_x}{\sum d_x} = 35$$

を解けばよい.

問題 15.(C)

積立金 F_0 に対し, 1 年後の積立金 F_1 は, 確率 $1/2$ で,
 $(F + C - B)(1 + i + j)$, $(F + C - B)(1 + i - j)$ のどちらかとなる. 前者に対し, 1 年後の積立金 F_2 は, 確率 $1/2$ で,
 $F_0 \frac{1+j}{1+i}(1 + i + j) > F$, $F_0 \frac{1+j}{1+i}(1 + i - j) > F$ のどちらかとなる. 後者に対し, 1 年後の積立金 F_2 は, 確率 $1/2$ で,
 $F_0 \frac{1-j}{1+i}(1 + i + j) < F$, $F_0 \frac{1-j}{1+i}(1 + i - j) < F$ のどちらかとなる. 以上より, 50%.

問題 16.

	A	B	A&B
S^p	240	100	340
S^a	1,800	720	$1,800 + 720/0.64 = 2,925$
S_{FS}^a	550	220	$550 + 220/0.64 = 893.75$
S_{PS}^a	1,250	500	$1,250 + 500/0.64 = 2,031.25$
S^f	525	210	853.125
G^a	7,688	4,805	12,493
G^f	7,000	4,375	11,375
F	1,200	500	1,700
L	288	180	468
給付水準	1	0.64	1

ただし, 給与 1 あたりの給付現価は A が 6.25, B が 4 であるため, B の給付水準は A の給付水準に対し 0.64.

- ① $P_A = 525/7,000 = 7.5\%$.
- ② $V_A = 240 + 1,800 - 7.5\% \times 7,688 = 1,463.4$ より,
 $\Delta P_A = (1,463.4 - 1,200)/(288\ddot{a}_{\overline{10}|}) = 9.98\%$.
- ③ $P_B = 210/4,375 = 4.8\%$.
- ④ $V_B = 100 + 720 - 4.8\% \times 4,805 = -589.36$ より,
 $\Delta P_B = (589.36 - 500)/(180\ddot{a}_{\overline{7}|}) = 7.52\%$
- ⑤ $P_{A\&B} = 853.125/11,375 = 7.5\%$, $V_{A\&B} = 340 + 2,925 - 7.5\% \times 12,493 = 2,328$.
- ⑥ $\Delta P_{A\&B} = (2,328 - 1,700)/(468\ddot{a}_{\overline{10}|}) = 14.65\%$.
- ⑦ $\Delta P_{A\&B} = (2,328 - 1,700)/(468\ddot{a}_{\overline{m}|}) \geq 9.98\% \iff 13.446 \geq \ddot{a}_{\overline{m}|}$ より 15 年.

問題 17-20. 公式解答のとおり.

以上